



言葉を意識して

校長 関根 祐一

月ごとのカレンダーが1枚を残すのみとなります。校庭の木々もすっかり装いを変え、澄んだ夜空にオリオン座の星々が美しく瞬くようになりました。いよいよの冬本番、年末を感じます。

過日の校内音楽会では、子どもたちが日頃の学習の成果と、当日の発表に向けて一生懸命に重ねた練習の成果をしっかりと発揮することができました。とても素晴らしい音楽会となりました。各ご家庭のご支援にあらためて感謝申し上げますとともに、音楽会の運営に多大なお力添えをくださいました後援会の皆様に厚く御礼申し上げます。大変ありがとうございました。

また、校内音楽会前の11月6日には、市内親善音楽会に5年生が学校を代表して参加しました。とてもきれいな伸びと抑揚のある歌声を市民文化センター「ミュージ」の大ホールに響かせてくれました。会場への行き帰り、参加姿勢も含め所沢小学校の代表にふさわしい姿でした。

さて、大変残念なことに、私たちの身近なところで「うざ」「きも」「きえろ」「無理」・・・等、全て受け入れない、全てを否定するようにも受け取れる酷い言葉を日常的に聞いたり、あるいはSNS上で見たりします。相手や周囲のことを考えず、軽々しく刺のある言葉を投げ合い、刺々しい関係性の中で傷つき、自信と自己を表現する意欲を失う人が増えていく。何とかしていかなければいけない負の構図です。我々大人が範を示し、子どもたちがそんな言葉をつかっていたときにはしっかり指導していけるようにしたいものです。

一方、どうでしょうか、自戒を込めて申し上げれば、私たち大人も刺々しい言葉をつかっていないでしょうか。あるいは、子どもたちに向けて、自主性や個性の輝きに陰を落とすような言葉をかけているようなことはないでしょうか。

以前読んだ本の中の「思考が言葉を変えるように、言葉もまた思考や行動を変えていく。」「いい言葉には、自然といい言葉が返ってくる。」という一節を思い出します。安心して自分が自分でいられる、支え合う関係性を作り上げていける温かい言葉をつかい合いたいと思うのです。

11月の学校の生活目標は「優しい言葉づかいをしよう」でした。12月4日からは、人権週間です。今一度、日頃の言葉を一つ一つ確かめることができるかといよいのではないのでしょうか。



20分休みの
校庭風景

学期末を迎えました。日々の学習、行事も沢山ありました。1つ1つの積み重ねが、達成感・自信という前に進んでいく大切な力に結びつくよう“まとめ”の取組を進めていきたいと考えています。12月もご協力をお願いいたします。

全国学力・学習状況調査（6年生の国・算・理で実施）や埼玉県学力学習状況調査（4・5・6年生の国・算で実施）の詳細な結果が出されています。もちろん、こうした調査結果は、学力の一側面のみを示すものであって、学びの成果の全てを表すものではありませんが、学習指導の一層の工夫・改善のための1つの指標として捉え、職員研修で各種調査結果の分析を行っています。

結果を概観しますと、全国学力・学習状況調査では国語と算数で県や市の平均値を上回り、理科では県や市の平均値とほぼ同様という結果でした。埼玉県学力学習状況調査では、国語・算数ともに県や市の平均値を上回る結果でした。

課題になっている「文にまとめること」については日頃の学習の中で書く活動を位置付けられるよう工夫していくこと、表現タイムの取組を効果的に進めていくこと等の方策を確認しました。“1つ1つの授業を大事にして、45分間を最大限有効に活かし豊かな学びを紡ぎだす”教師の不断の努力と、子どもたちの真っ直ぐな学習姿勢こそが、確かな学力・体力を高めていくものと思っています。